

技術的安全情報

1907/2006/EC (REACH)指令附則 IIIに準拠する安全データシートの形式に従う

1. 物質または混合物および会社情報

1.1 製品識別

商標名

SY-B

一般名称 セリウムドープイットリウムアルミニウムセラミックス
CAS番号 12005-21-9
EC番号 234-465-8
表記 酸化イットリウムアルミニウム
REACH登録 本ガラスは登録に対して適用除外

1.2 物質または混合物に関する特定の使用および以下に対して通知した使用

産業用途および業務用途:
切断、研削、研磨、コーティング等の加工によって形成する光学的コンポーネンツ製品における主要な材料。

1.3 安全データシートの供給者の詳細情報

会社名

ショット日本株式会社

住所

埼玉県朝霞市泉水3-13-45 6階

電話/FAX

048-460-3056 / 048-468-0350

技術情報に関する連絡先

岡野知水

セールス/アプリケーションエンジニアリング シニアマネージャー

電話/FAX

0748-65-1700 / 0748-63-6842

メールアドレス

yoshio.okano@schott.com

1.4 緊急時連絡先

03-5366-2491(ショット日本株式会社 カスタマーオフィス)

2. 危険有害性の要約

2.1 材料または混合物の区分

本物質は危険な物質として分類されていない。

2.2 ラベル要素

ラベル付けに関する要求事項はない。

2.3 その他の危険有害性

本物質は通常の使用上危険性はない
ガラスを加工する際には、損傷または破損により鋭い刃を生じ得る。
その場合、切り傷を引き起こす可能性がある。

ガラスを加工する際に、ガラス粉塵を生じる可能性がある。

急性効果:呼吸刺激

慢性効果:危険性のある塵肺への影響。

ガラスの研削片および屑は適用法規に則して廃棄されなければならない。

3. 組成および成分情報

3.1 物質
16章参照。

3.2 混合物
ガラスは指令(EC) 987/2008 (REACH規則の改定)によれば、物質として区分される。

4. 応急措置

4.1 応急措置の説明

一般情報

本物質は危険物質ではない。次の情報は加工または破損の際、発生しうるガラス粉塵またはガラス破片に言及する。

吸入した場合 皮膚に接触した場合

新鮮な空気を供給すること。病状がある場合、医師に相談のこと。
通常は危険ではない。
病状がある場合、医師に相談のこと。

目に接触した場合

十分な流水で洗い流す。
症状がある場合医師に相談のこと。

飲み込んだ場合

医師に相談のこと。

4.2 急性および遅発性の最も重大な症状および影響

知見なし

4.3 早急な特別な治療の必要性および医学的留意点

なし

5. 火災時の措置

5.1 消火剤

要件なし

5.2 物質または混合物から生じる特殊な危険性

不燃性である

5.3 消火活動に関わる注意

なし

6. 漏出時の措置

6.1 人員に対する予防措置、保護具および応急措置

なし

6.2 環境保護措置

なし

6.3 格納および清掃方法、機材

なし

6.4 他の節への参照

なし

7. 取扱いおよび保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

鋭いエッジによる負傷の危険性があるためガラスの破損を防止すること。

7.2 安全な保管条件

乾燥した環境で保管のこと。過度な湿度を避けること。

7.3 具体的な最終用途

1.2節参照

8. ばく露防止および保護措置

8.1 管理パラメータ

ガラス粉塵が発生した場合 CAS番号: 60676-86-0石英ガラスに関わる情報を適用する。

規則 TRGS 900 – GERMAN OCCUPATIONAL EXPOSURE LIMIT VALUES (2006年1月版)

値: 0.3mg / m³ (ばく露限度値) 肺胞画数に準じて

最大限界 情報なし

催奇性: 限界値を厳守する限り、胎芽または胎児の成長被害への危険性に関して恐れる理由はない。

8.2 ばく露管理

技術的手段および適切な作業手順は、人体の保護装備より優先度が高い。適切な局所排気または換気装置により十分換気すること。

保護手段の効果の確認に適した評価法は、“Technischen Regeln for Gefahrstoffe (TRGS) 402” に記述される測定方法を包含する。

呼吸保護

技術的手段: 湿式研削/加工により、粉塵発生を防止すること。ガラス粉塵やガラス微粒子量が国家規制値を上回る場合、国が承認した粉塵および繊維用マスクを使用のこと。

手の保護

切り傷からの保護のため、保護手袋および安全リストバンドを使用のこと。

目の保護

国家規格に適合する工業用安全眼鏡を使用のこと。

人員保護

鋭い端部の保護において安全前掛けを使用のこと。安全靴を着用のこと。

9. 物理的および化学的性質

9.1 基本的な物理的および化学的特性に関する情報

外観	
物理的状态	固形
色	透明または着色
臭気	臭気なし
pH値	該当なし
沸点	該当なし
融点	1930 ° C
引火点	該当なし
可燃性	該当なし
発火点	該当なし
自然発火性	該当なし
爆発の危険性	なし
上限/下限爆発限界	該当なし
酸化特性	なし
蒸気圧	該当なし
密度 (20 ° C)	4,30 g/ccm
水溶性	該当なし
脂溶性	該当なし
nオクタノール/水分配係数	該当なし
その他の情報	なし

9.2 その他の情報 なし

10. 安定性および反応性

10.1 反応性

本物質は安定な材料である。本物質は多くの化合物に対して不活性であるが、熱アルカリ、強アルカリ溶液およびフッ化水素水、フルオロケイ酸、リン酸に対して反応する可能性がある。融点以上に加熱される場合、金属酸化物ガスが放出される可能性がある。

10.2 化学的安定性

本物質は通常的环境下で安定である。

10.3 考えうる危険な反応性

対象とする使用範囲での危険な反応の可能性はない。

10.4 回避すべき条件

10.1節参照

10.5 混触危険物質

10.1節参照

10.6 危険有害な分解生成物

10.1節参照

11. 有害性情報

- 11.1 毒性効果に関する情報
毒性データは該当なし

12. 環境影響情報

- | | | |
|------|---------------|---------|
| 12.1 | 毒性 | 知られていない |
| 12.2 | 持続性および分解性 | 知られていない |
| 12.3 | 生体内蓄積能 | 知られていない |
| 12.4 | 土壌中内での移動性 | 知られていない |
| 12.5 | PBTおよびPvB評価結果 | 知られていない |
| 12.6 | その他の有害影響 | 知られていない |

13. 廃棄上の注意

- 13.1 廃棄物処理方法 自治体の規則に従い、廃棄処分のこと。

14. 輸送上の注意

- | | | |
|------|---|--------|
| 14.1 | 国連番号 | 要求なし |
| 14.2 | 品名 | 要求なし |
| 14.3 | 国連分類 | 要求なし |
| 14.4 | 容器等級 | 要求なし |
| 14.5 | 環境への危険性 | 要求なし |
| 14.6 | 特別な安全対策 | 6~8節参照 |
| 14.7 | Marpol条約73/78およびIBC Code AnnexIによる積荷の輸送 | 要求なし |

15. 適用法令

- 15.1 安全、健康、環境保護に関わる諸規則 / 特定の素材または混合物に関わる法令

REACH 本材料は登録に対して適用除外。

RoHS 本物質は当社の知見の限りでは、指令2011/65/EUの現要件において流通が禁止されている濃度の材料を含んでいない。

安全情報に関する国連世界調和システム(UN-GHS):
本情報は安全性情報に関わるUN-GHSの要件をも配慮している。

15.2 化学的な安全評価
化学的な安全評価は行われていない。

16. その他の情報

16.1 酸化物に基づいた原材料による混合物の組成。

化学物質名	CAS番号	重量比率 (%)	SVHC (REACH) (J/N)	Reg. (J/N)	OSHA PEL	ACGIH TLV	Carc. (J/N)
酸化アルミニウム	1344-28-1	40 - 50	No	Yes	15 mg/m ³	10 mg/m ³	No
酸化セリウム	1306-38-3	< 3	No	No	N/A	N/A	No
酸化イットリウム	1314-36-9	50 - 60	No	Yes	1 mg/m ³	1 mg/m ³	No

分類および限度値は原材料において有効である。3章参照のこと。
本物質は高懸念物質(SVHC)ではない。

表中記載事項に関わる説明:

SVHC(REACH)	原材料は高懸念物質候補リストに記載されている。
Reg.	OSHA規制(基準 - 29 CFR)副項目 1910.1000 表 Z1からZ3大気汚染物質限界値に対する規制化学物質
OSHA / PEL	化学物質における許容暴露限界 - OSHAにより発行
ACGIH / TLV	許容濃度 - ACGIHによる化学物質分類。
OSHA	米国労働安全衛生管理局 労働省 (www.osha.gov)。
ACGIH	米国産業衛生専門家会議 (ACGIH)。労働衛生および環境衛生の促進を目的とする会員制団体。
Carc.	発癌性物質として分類された化学物質

- 16.2 賠償責任** 本情報は当社の最新知見に基づくもので公開時点においては誤りのないことを確信している。しかしその正確さおよび完全性に対する責任を当社は負わない。記載内容はガイドラインとしてのみ提供されており、保証または品質規定として捉えてはならない。すべての材料は未知の危険を含むことも考えられ、注意して使用する必要がある。一部の危険は記載されているとはいえそれを超える他の危険が無いことは当社としては保証できない。
- 16.3 変更履歴** 旧版からの変更点は右欄に強調表示され、版番号が記載されている。新版の番号が表示されている。
- なし(初版)